

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 児童発達支援事業所 ナチュファミ

公表日 R8年2月9日

利用児童数 17名 (15世帯)

14名 回収数

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	11	2		1		お子様が安全に過ごせるよう、活動内容に合わせたコーナー分けや、ゆとりあるスペースの確保を継続して工夫していきます。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	11			3		お子様一人ひとりの特性に合わせ、常に手厚いサポートができるよう基準を上回る職員配置とチーム連携を今後も徹底してまいります。
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	10	2		2		一目で活動が分かる工夫を継続し、玄関の段差などは安全な身体訓練の場として活用するなど、環境面の配慮をより分かりやすくお伝えします。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	12	1	1		椅子の座り心地が悪い。	「現在使用している椅子は体感とバランス感覚向上や正しい姿勢」の意識づけができるものを事業所内で検討し使用しています。子どもさん達の様子を職員が見守りながら目的をもって支援を行っています。
適切な 支援の 提供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	11	2		1	いつも気にかけていただきありがたい。	お子様の個性を大切に、専門知識を活かしたきめ細やかな支援を深めるとともに、その様子を保護者様へより丁寧にお伝えします。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	12	2			・社会活動にバスを利用するなど工夫して欲しい。 ・地域のコミュニケーションの活動が見えなかった。	地域との関わりや年間活動計画についても工夫しながら保護者様の皆様にわかりやすくお伝えできるよう取り組んでいます。
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	12	1		1	作成はされているが、同年生の交流がほしい。	お子様のニーズに寄り添った計画を共有し、特に同年代との関わりや機会を大切に活動を実践的に取り入れています。また、異年齢の種々な関りも、発達に重要な事とご理解いただけるように保護者説明を強化してまいります。
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	14					
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	12	1		1		個別支援計画に基づいた日々の療育を徹底し、お子様の小さな変化や成長を、連絡ツールを通じてより詳しく共有してまいります。
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	9	3		2		反復による習得と新しい刺激のバランスを考えたプログラムを提供し、その意図を活動報告などを通じて丁寧にお伝えします
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会がありますか。	4	2	4	4	いつも児童クラブまでの送迎ありがとうございます。	他児や地域社会との交流機会を、近隣施設との連携をし、具体的な交流計画を早急に進めます。
保護者 への 説明等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	14					
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	14					
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	13	1			日程が合わなくて参加していない。	毎年年間行事を保護者の方へ配布し、日程は事前にお知らせしている。今後できるだけ多くの保護者の方が参加できるようアンケートなどを実施しながら日程を決めていく。
	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	14	1				連絡ツールや送迎時の対話をさらに充実させ、お子様の健康面や成長の喜びを分かち合える、コミュニケーションを心掛けます。
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	14				いつもありがとうございます。	
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	13		1		時々助言がきついたりときがある。	職員の言葉掛けを常に見直し、お子様や保護者様の気持ちに寄り添った、温かく丁寧な対話を常に徹底してまいります
18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	11	1		2		保護者様同士の交流会や、きょうだい児への配慮を深める行事などをさらに検討し、ご家族全体をサポートする体制を整えてまいります。	

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	14				相談をしにくく遠慮してしまう。気を遣い、追加利用もしにくかった。	職員の接遇・コミュニケーションの改善と、相談をしやすいように相談日を具体的な日程で組み、直接会って相談が難しい時はメールを活用して環境を整えている。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	14					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	14				写真が見にくい。写真NGのお子さんをのせなくてもいいんじゃないかと思う。	貴重なご意見をありがとうございます。今後は写真の鮮明さに配慮するとともに、掲載を希望されないお子様のプライバシー保護を徹底し、より見やすく安心な情報発信に努めてまいります。これからも活動の様子を丁寧にお伝えしていきます。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	13	1				大切な個人情報の管理を再徹底し、写真使用時の配慮を含め、保護者様に一層の安心感を持っていただけるよう運用を厳格化します。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	13			1		各種訓練の実施報告を掲示するなど、事業所の安全対策の取り組みを可視化し、安心してお預けいただけるよう努めます。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	11	2		1		定期的な避難訓練の内容や非常時の連携体制を改めて周知し、いざという時の備えを確実なものにしてまいります。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	13			1	お迎えを忘れて待たせることがあった。子どもが歩いて帰った。	事業所内でヒヤリハット報告として職員内で共有し、送迎時間の確認方法を見直し、現在行っている。送迎時の安全管理を根本から見直し、複数名でのダブルチェックを徹底するなど、お子様の安全確保に万全を期してまいります。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	14					
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	12	1	1			お子様が心から安心して過ごせる居場所となるよう、一人ひとりの不安に寄り添い、丁寧な関わりを継続してまいります。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	11	2	1			『今日も楽しかった』と笑顔で帰れるよう、お子様の興味に合わせた楽しい活動の充実と、温かい雰囲気づくりに努めます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	12	2				いただいたご意見を真摯に受け止め、日々の支援の質向上に努め、ご家族に信頼いただける事業所づくりを追求してまいります。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		児童発達支援事業所 ナチュファミ				公表日	R8年 2月 20日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	<input type="radio"/>		活動内容に適した部屋を分けて使用したり、個別対応が必要な児童が使える部屋を準備しています。	今後も利用状況や支援内容に応じて環境の見直しを行い、安全で安心できる空間づくりに努めていきます。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	<input type="radio"/>		基準を上回る手厚い人員配置で安全な支援体制を整えています。また、必要に応じて個別の対応ができるように努めています。	職員間の連携をさらに深め、緊急時でも支援の質を維持できる体制を継続します。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	<input type="radio"/>		・設備のバリアフリー化については、段差など児童の範囲に整えています。「気づく、考える」など、また、ビニールテープなど目印など視覚的支援を行っています。 ・児童が安全に利用できるよう、絵カードや文字で分かりやすく視覚的な表示をしています。 ・段差がある部屋には手すりがあります。	・玄関に段差がありますが、単に「危ない」で終わらせず、段差を意識して歩くことを「身体のコントロール(粗大運動)」の支援プログラムの一端として位置づけていきます。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	<input type="radio"/>		・食事や学習する場所・運動・活動する部屋を分けて、環境を整えています ・活動部屋が広く、子どもたちも楽しそうにしています。複数の部屋があり、とても良いと思います。	お子様の感覚等に配慮し、個々の特性に応じた環境の微調整を継続します。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	<input type="radio"/>		児童のその日の気持ちによっては小集団で過ごす事が難しい時もあるので、個別でゆっくり落ち着ける部屋で過ごせるようにしています。	限られたスペースの中で、より多くのお子様「安心して居る場所や安心できる部屋」を確保できるよう、パーティションや仕切りを活用したコーナー作りを工夫し、視覚的に落ち着ける環境整備をさらに進めていきます。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参加しているか。	<input type="radio"/>		・日報のミーティング、朝礼、昼礼など職員との情報共有、保護者さまからの要望も参考にさせてもらっています。 ・日々の活動で利用者の個別目標設定と振り返りを職員間で、個別支援計画へ反映させています。	業務改善のプロセスがより明確になるよう、具体的な評価指標の導入を検討していきます。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		・評価表の結果を確認し、改善に繋がっています。退院時の保護者さまからの要望も参考にさせてもらっています。 ・日報のミーティング、朝礼、昼礼など職員との情報共有、保護者からの意向なども検討したり、状況によっては専門の先生方にご教示いただいています。	改善した内容が保護者様に確実に伝わるよう、フィードバックの方法を工夫します。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		職員ミーティングの中で、意見を出しやすい環境である。定期的な個人面談も行われており、記録事務の提案など職員の業務効率化にすぐ対応して頂いている。	経験の浅い職員も意見を出しやすいよう、定期的な個別面談の機会を今後も設けていきます。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		内部での振り返りを行い、客観的な視点での業務評価に努めています。	第三者評価受審の時期や具体的な評価機関について情報収集を行い、客観的な評価を受けられる体制を構築していきます。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	<input type="radio"/>		事業所内全体での研修の参加や、事業所外又はオンラインでの研修を受け職員の資質向上と専門性の確保を図っています。	受講した研修の内容を事業所内で報告書として共有し、チーム全体で対話する機会を増やしていきます。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	<input type="radio"/>		事業所の特色を活かしたプログラムを策定し、HPを通じて公表しています。	プログラムの内容が保護者さまに分かりやすく伝わるよう、図解を用いたりした説明を考えていきます。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	<input type="radio"/>		児童発達支援管理者を中心に実施し、計画を作成しています。要望や発達段階を考慮して作成しています。	長期的な視点(将来の自立)を見据えた目標設定ができるよう、アセスメント項目の精査を継続します。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	<input type="radio"/>		児童の支援に関わる職員全員が共通理解し、チームで検討している。	会議の効率化を図り、より深いケーススタディ(事例検討)に時間を割けるようを工夫します。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	<input type="radio"/>		計画に沿った内容を全職員で共有し日々の支援を職員全員で心がけています。	計画と実践のズレが生じないよう、定期的な振り返り会議を強化します。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	<input type="radio"/>		日々の関わりの中での様子や必要に応じて検査結果を参考にしたり、専門の先生よりアドバイスをいただいたりながら子どもの姿を把握しています。	どの職員でも客観的な記録が残せるよう評価指標の標準化を図り、専門性を高めます。	

	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		夕方送迎も職員が行っているため、その日に振り返りができない時は、次の日の朝礼で必ず行っています。	その日の内に振り返りを行うことは送迎の関係上できる日とできない日がありますが、翌日に必ず共有し、そのほか情報共有ツールを使用したりして共有をします。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		個別日誌に記録を残しています。日々の支援の質の向上へつなげています。また専門的支援にもつなげられます。	記録の質の向上と事務作業の効率化を両立させ、お子様と向き合う直接支援の時間を最大限に確保する工夫を継続します。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		半年に一度実施しています。定期的なモニタリングを通じ、お子様の成長を保護者様と共有し、最適なタイミングで計画の見直しを行っています。	モニタリング結果を保護者様により分かりやすく伝え、ご家庭での様子も柔軟に計画に取り入れられるよう、対話を大切にします。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	○		生活の自立の促しや五感を使って表現できる喜び、達成感などそして社会化学習を行い、体験の機会もしている。	地域交流の活動はコロナ感染拡大の時期から自粛していたので、今後は前向きに検討して活動を行って行きたい。
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		・大人から子どもの気持ちを探り、行動はなるべく控え、子どもが自己決定、自己発信できるように視覚的なものも使って支援しています。 ・活動の準備、配置など児童同士で考えたり、小さな選択から経験を積めるよう自覚にも繋げています。	・自己表現が難しいお子様にも意思表示の機会が持てるよう、選択肢の提示方法をさらに工夫していきます。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		・児童発達支援管理者を中心に参加し、会議の内容は職員へ共有している。	会議で得た知見を内部で共有し、支援の質のさらなる向上に活かします。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		・必要であれば直接お子さんの通院されている医療機関の心理士やDrと会って、利用時の情報共有や支援の方向性の確認を行っています。また保護者の方から受診時の書類や服薬の内容を把握する等、情報共有しています。	近隣の医療機関や専門機関とのネットワークを更に広げ、緊急時の対応力も強化していきます。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		・定期的に各学校と連携を取っています。学校迎えの際、担任にも情報共有を行っています。	より円滑で継続的な連携体制となるよう、今後も情報交換の機会の充実を図ってまいります。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		移行支援シートを活用している。必ず相談員や他機関との担当者会議を設けている。	今後も移行時だけでなく、継続的な情報共有の機会を持てるよう体制づくりも含め情報共有に努めてまいります。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		移行先へ必要な情報を整理し、引き継ぎ資料を作成しています。また保護者さまの同意を得た上で、丁寧な情報共有を行っています。	進路選択の段階から丁寧な情報提供を行い、安心して移行できるよう支援体制を整えてまいります。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		必要に応じて助言をいただき、日々の支援に活かしています。研修や情報共有を通して専門性の向上に努めています。	より専門的な助言を継続的に受けられるよう、地区主催の支援者研修等連携の機会を増やしてまいります。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		地域社会との接点を大切にし、お子様が他児と触れ合える機会を積極的に検討しています。	コロナ感染拡大の時期から自粛していたので今後は前向きに活動を検討していきたい。 ・今のところ機会は設けていないが4月から開所する子育て支援センターへの交流ができるようになり交流活動計画している。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		地域の協議会等へ積極的に参加し、情報収集と連携強化に努め、内容は職員間で共有し、支援に活かしています。	参加内容をより具体的に支援へ反映できるよう、振り返りと活用方法を充実させてまいります。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		送迎時、保護者さまに伝えたり、メールや電話も活用しています。必要に応じて個別面談を実施しています。	日々の送迎時や連絡ツール等で情報共有を行っておりますが、十分な時間が取れない場合もあるため、面談や個別相談の機会をさらに充実させ、より深い共通理解につなげてまいります。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		必要に応じて個別相談を実施し、保護者様のお気持ちに寄り添った支援を心がけており、専門職による助言の機会も設けています。	保護者様向けの情報提供や学びの機会と、保護者様同士が学び合える機会の充実を図り、家庭支援の幅を広げてまいります。
保護者への説明	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時に重要事項説明書に基づき児童発達支援管理責任者が丁寧に説明を行っています。	より透明性の高い運営を目指し、支援プログラムの具体的な進捗状況や成果を、ご家庭へ定期的かつ視覚的に分かりやすくフィードバックする仕組みを検討してまいります。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		計画作成時、保護者様の意向を丁寧に伺い、お子様の最善の利益を最優先に検討しています。	お子様本人の「やってみよう」という意欲をより細やかに汲み取る工夫を継続します。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		支援計画に基づき、具体的な支援内容を分かりやすく説明し、半年に一度同意を得た上で実施しています。	専門用語を避け、どなたにも伝わりやすい言葉遣いと丁寧な解説を心がけます。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		保護者さまの要望または、事業者内での判断によっては心理士や言語聴覚士などの専門の先生にも同席をお願いして面談を行っています。	相談しやすい雰囲気作りを継続し、必要に応じて専門機関への橋渡しもサポートします。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		保護者交流会を開催し、ご家族同士が情報を共有できる機会を提供しています。	きょうだい児への配慮を含む、ご家族全体をサポートできる行事の具体化を検討してまいります。
		こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、			苦情受付体制を整備し、迅速かつ誠実な対応	対応内容の振り返りを継続的にを行い、さらなる

	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○	言葉だけに頼らず、視覚的支援や伝え方の工夫を配慮している。保護者の気持ちや立場に寄り添いながら丁寧な説明を心がけている。	多様な状況にある保護者様への配慮（多言語対応の検討等）についても、必要に応じ強化します。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○	ナチュカフエなど定期的な行事参加をいただいています。	広報がうまくいかないこともあり、地域の子育て世代への周知に今後の課題が見られた。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○	各種マニュアルを整備し、職員へ周知するとともに訓練を実施しています。	定期的な見直しを行い、実態に即した内容へ更新してまいります。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○	BCPを策定し、災害や感染症に備え、定期的に訓練を行っている。振り返しを行い、次回への見直しに繋げるようになっています。	避難経路などを改めて周知し、非常時におけるご家庭との連携体制を明確にします。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○	入所時に服薬や発作等の状況を確認し、安全な支援に繋げるための情報を職員間で共有しています。	最新の健康状態や緊急連絡先を常に更新できるよう、定期的にお声掛けを徹底します。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○	おやつ準備の際に確認ができるように、おやつ保管場所近くに、表を貼って職員が共有できるように視覚化しています。	常に最新の対応知識を職員間で共有・維持し、いざという時の備えを万全にします。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○	安全計画を策定し、ヒヤリハット事例を共有しながら安全意識の向上に努めています。	保護者様への説明機会をさらに充実させ、安全への取り組みをご理解いただけるよう努めてまいります。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○	避難訓練実施、通信にてお知らせしています。ヒヤリハットは、職員間で事例共有し、必要に応じ保護者へ具体的な危険性、対策などを伝えています。	安全計画の内容をより分かりやすく公開し、日頃の管理体制について周知を徹底してまいります。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○	そのようなことがあった場合はすぐに報告、共有し、再発防止に努めています。	小さな兆候も見逃さない分析の質を高め、さらなる安全性の向上を目指します。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○	・年1回以上の研修と記録・報告を行っている。 ・職員間で周知して取り組んでいます。	常に最新の法令知識に基づいた支援を徹底し、お子様の権利を守る体制を維持します。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○	本人、他利用児の安全が確保されない場合に、契約の時に同意を得ています。	日々の支援を振り返る研修を継続し、より適切な支援技術の習得に努めます。安全面からの抑制もやむを得ない場合に限り行う場合があることを契約時に保護者へ丁寧に説明を行い、同意を得る必要がある。	

